

宛先	殿		1
文書分類	☐ 営業、技術、管理、製造、企画、議事録、出張 ☐ 資料、設計検討、試験、品質管理、() ☐ 計画書、報告書、依頼書、連絡書、指示書 [該当するものに○を付けて下さい]	特記事項	[重要度・緊急度・販売先、適用機種等]
題目	テストハウス 除湿送風機（ドライプロ）効果実験報告書		

【実験方法】

基礎断工法住宅の新築初期を想定し、各棟の床下基礎に36Lの水を散水後、乾燥木材（杉）を設置し、木材の含水率及び床下の湿度を測定する。

・試験日：2019年7月2日～8月26日

・測定器：温湿度データロガー（ワイヤレスロギングステーション）HIOKI製 LR8410

メスシリンダー（class-A） 100mL 柴田化学製

サンコウ電子研究所 木材水分計 MR-200(直流電気抵抗式)

●テストハウスA棟：床面積約10坪 基礎断熱工法床下（ドライプロ設置）

※除湿運転：毎日9：00～17：00の8時間動作

※実験中の除湿量：平均約500mL/日（MAX560mL/日）

●テストハウスB棟：床面積約10坪 基礎断熱工法床下（除湿送風機無し）



テストハウス A/B棟



基礎断熱工法床下



除湿送風機設置（北側）

【実験結果】

●木材含水率（別紙グラフ参照）

A棟の木材は乾燥した木材の状態から上昇する事なく約1ヶ月経過からはより乾燥した状態（木材含水率12%）を確認した。

B棟の木材は乾燥した木材の状態から徐々に湿潤し、約2ヶ月後には木材含水率が25%まで上昇した。※実験約1ヶ月経過後木材（中央設置）表面に黒カビ発生。



●各温度/湿度データ（別紙グラフ参照）

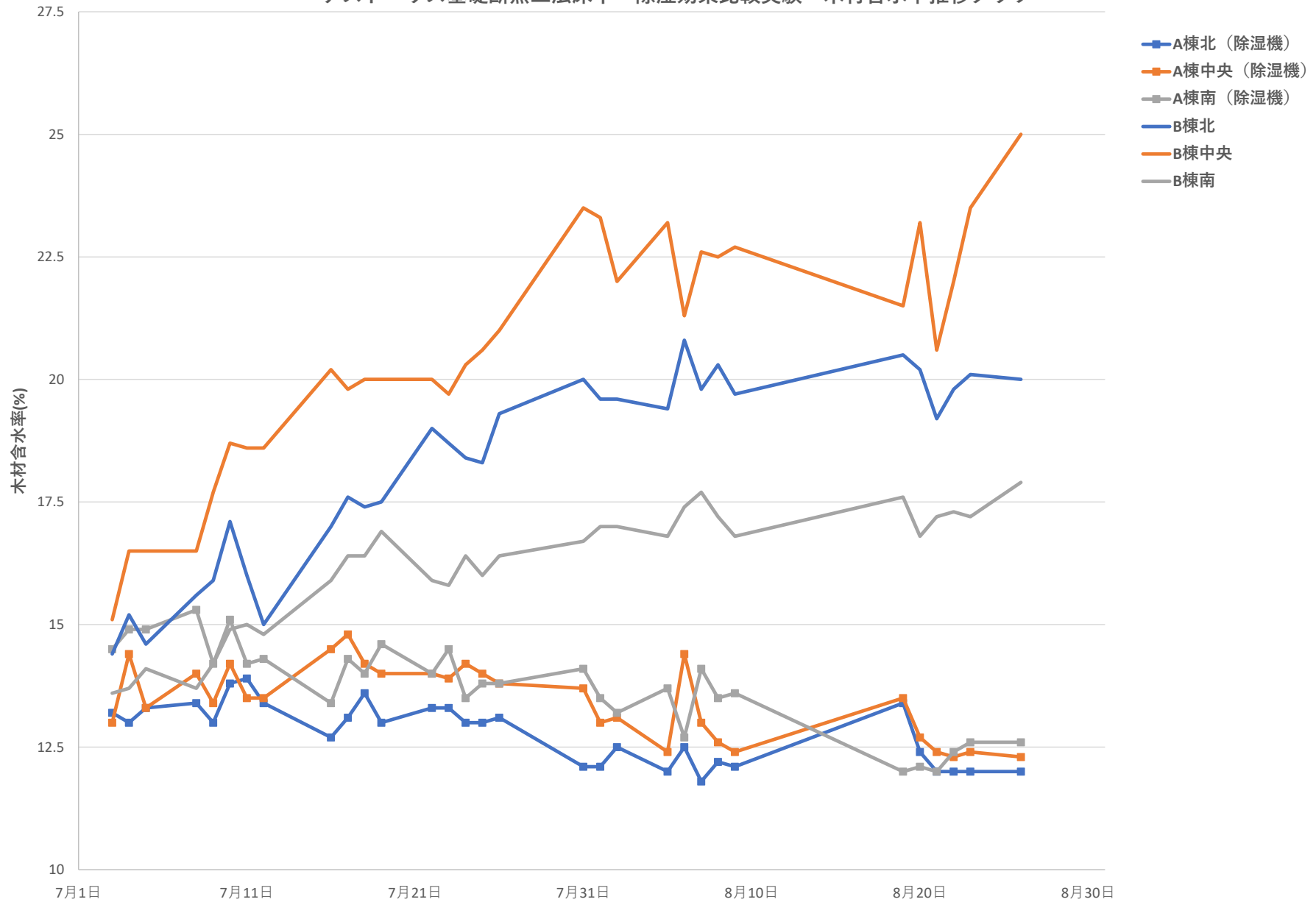
A棟は除湿運転時のみ湿度が低下し、その後また高湿に戻るが、除湿運転を毎日繰り返して行くことで徐々に乾燥し、約2ヶ月後には平均で湿度約70%RHの乾燥した状態を確認。

B棟は外気の影響で一時的に若干の乾燥はするが、常に湿度90%RH以上の高湿度の状態を確認。
以上

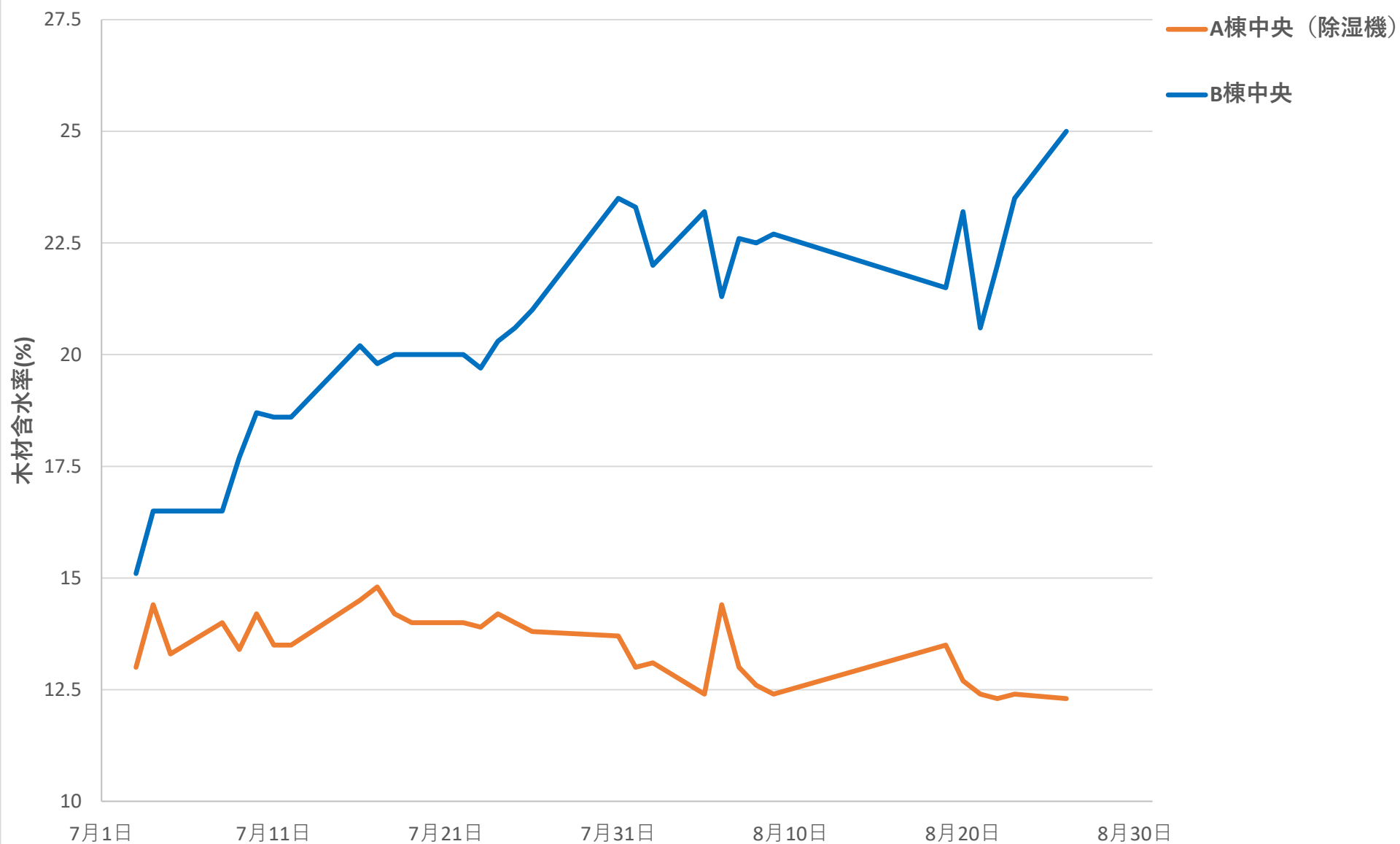
配布先
×
×
×
×
×
×
×
×
×
控え×

 セイホプロダクツ株式会社	承認	点検	点検	作成	作成部署	備考
					技術開発本部	
				2019.10.10		

テストハウス基礎断熱工法床下 除湿効果比較実験 木材含水率推移グラフ

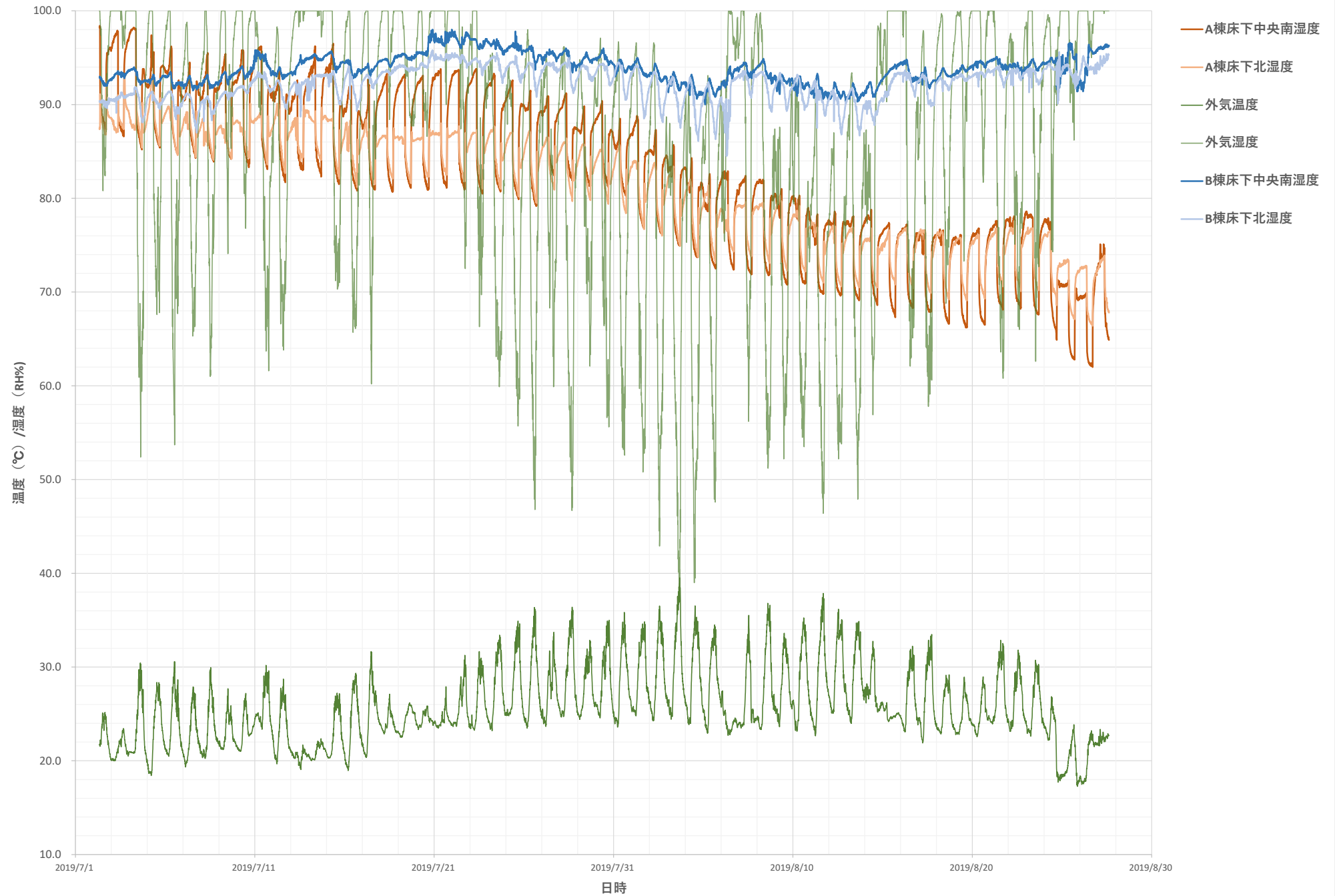


テストハウス基礎断熱工法床下 除湿効果比較実験 木材含水率推移グラフ



テストハウス基礎断熱工法床下 除湿効果比較実験データグラフ

(A棟：除湿機有り、B棟：除湿機なし)



テストハウス基礎断熱工法床下 除湿効果比較実験データグラフ

(A棟：除湿機有り、B棟：除湿機なし)

